

令和4年度農作物病虫害発生予察技術資料第6号

令和4年(2022年)10月14日
山口県病虫害防除所

コナガの防除を徹底してください

コナガの発生が多くなっています。

今後、キャベツ、はなっこりー、ブロッコリー等のアブラナ科野菜類で本虫の幼虫による被害の増加が懸念されるため、防除を徹底してください。

1 発生状況と今後の予測

(1) 10月中旬のキャベツの巡回調査では、発生ほ場率41.7%（平年22.3%、前年66.7%）、10株当たり虫数0.4頭（平年0.1頭、前年0.3頭）で、10株当たり虫数は、9月下旬から10月中旬にかけて急激に増加した（図1）。

過去10年と比較すると発生ほ場率は2番目に高く、10株当たり虫数は最も多かった（図2、3）。

(2) 福岡管区気象台発表（10月13日）の1か月予報では、気温、降水量はほぼ平年並とされ、本虫の活動に好適な気候が続くと予想される。

2 防除対策

(1) 表皮が透ける白斑状の食害痕（写真1）が認められる場合には、薬剤が葉裏までしっかりかかるよう丁寧に散布する。

(2) 薬剤散布後も定期的に確認を行い、発生が認められたら防除を実施する。

(3) 防除薬剤は、農作物病虫害・雑草防除指導基準を参考に選定する。

<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/soshiki/122/22316.html>

3 防除上注意すべき事項

(1) コナガは薬剤抵抗性が発達しやすいので、防除にあたっては、薬剤の作用機作による分類(IRACコード)を考慮した散布を行い、同一系統の薬剤の連用は避ける。

(2) ジアミド系(IRACコード:28)やオキサダイアジノン系(IRACコード:22A)等の農薬について、防除効果が低下しているとの報告がある。

(3) 薬剤散布の際には、農薬使用基準を遵守するとともに、周辺作物への飛散を防止する。



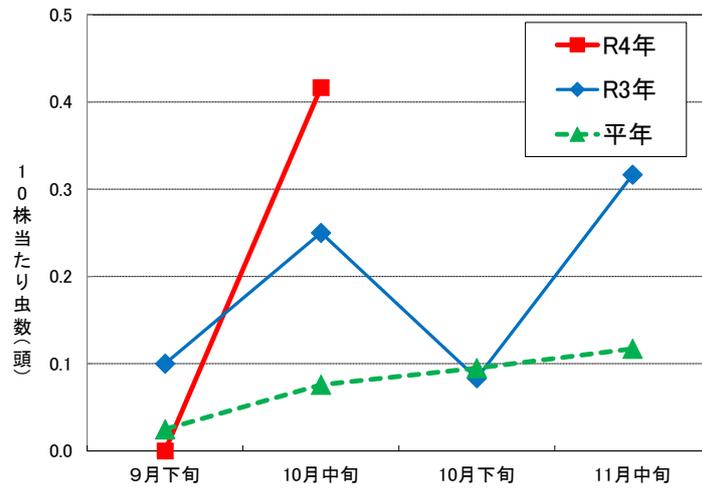
写真1 コナガの食害痕



写真2 コナガの老齢幼虫
(体長1cm程度)



写真3 コナガの成虫
(体長1cm程度)



キャベツ コナガの発生推移

図1 キャベツ調査ほ場でのコナガの発生推移

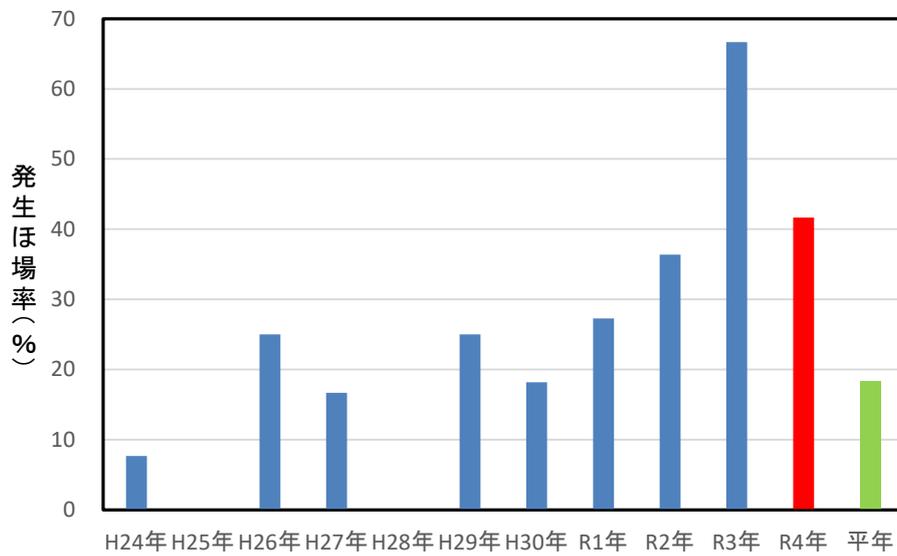


図2 キャベツ調査ほ場でのコナガの年毎の発生圃場率 (10月中旬)

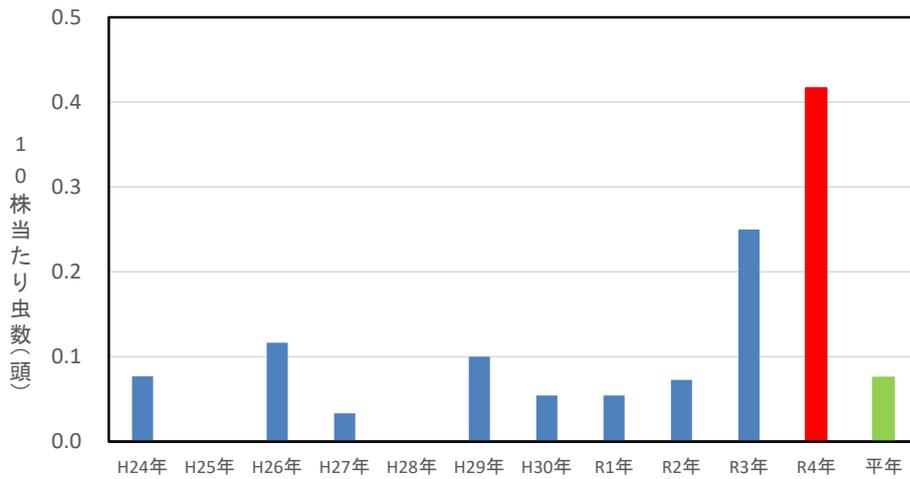


図3 キャベツ調査ほ場でのコナガの年毎の発生数 (10月中旬)